

資 料

西九州大学子ども学部における子育て支援活動
「子どもミュージアム」の平成21年度から平成23年度の取組み

田中麻里・大城あゆみ

(西九州大学子ども学部子ども学科)

(平成25年 2月12日 受理)

Child rearing support activities in Faculty of Children's Studies in Nishikyushu University: Practical report of the "Children's Museum"

- Initiatives FY 2011 FY 2009-

Mari TANAKA and Ayumi OOSIRO

(Department of Children's Studies, Nishikyushu University)

(Accepted February 12, 2013)

Key words : Child Rearing Support 子育て支援
Experience Learning 体験学習
Support Training 支援者養成

1. はじめに

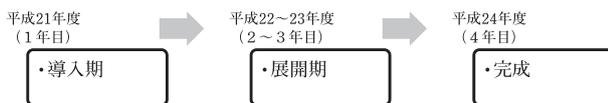
本学における子育て支援事業「子どもミュージアム」は、子ども学部が新設された平成21年度から始まり、平成24年度で4年目を迎えている。平成21～23年度は短期大学部幼児保育学科と子ども学部子ども学科の共同開催として実施してきた。その目的は、1) 子育て・子育てのための地域支援活動、2) 地域に開かれた大学づくり、3) 保育・教育者を志す学生の教育活動の3点である。

本事業は、「子ども文化の創造」を全体のテーマに掲げ、子どもの身体遊び、歌遊び、伝承遊び、科学や身近な自然にふれる活動などを提供するもので、対象は乳幼児から小学生およびその保護者としている。本事業では、参加した子どもが友達や家族、学生など人と人とのつながりのなかからさまざまな体験をし、自身の成長過程に必要なものを学ぶことができるようなプログラムの実践を目指している。事業計画および実践は学生と教員によるもので、授業の一環として行っている。

本資料は、平成21年度から平成23年度までの3年間の活動内容と実績をまとめたものである。

2. 活動内容と実績

先述したように子どもミュージアムは、平成21年度より実践してきたが当初の計画として、1年目を導入期、2～3年目を展開期、4年目に完成するように4カ年計画を立て開始した。



(1) 開催スケジュール

1年目は平日の午前中のみ、2年目以降は平日と土曜の午前の企画とした。主なスケジュールは以下に示す。

- 10：15～ 受付開始
- 11：00～12：00 子どもミュージアム開催
- 12：00～14：00 施設開放 ※平日のみ
- 14：00～ 片付け・環境整備

(2) 活動内容と参加実績

その活動内容と参加実績（表1. 2. 3.）および参加者の推移（図1.）は以下の通りである。

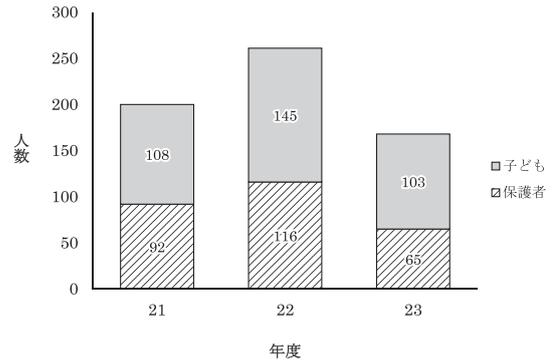


図1. 参加者の推移

平成21年度の参加人数は438名、参加学生は短期大学部幼児保育学科の「共に学ぶあすなろう」「卒業研究」の受講生で参加延べ数195名であった。

平成22年度の参加人数は274名、参加学生は子ども学部子ども学科「教育論」「保育内容指導法（人間関係）」の受講生で参加延べ数124名と、短期大学部幼児保育学科の「卒業研究」の受講生30名、計154名であった。

平成23年度の参加人数は191名、参加学生は子ども学部子ども学科「子ども学演習」の受講生で参加延べ数66名と、短期大学部幼児保育学科の「卒業研究」の受講生30名、計96名であった。

また、参加者の推移をみると平成23年度は51組の参加者であり、その内新規参加者は24組、参加歴のある人の参加者は27組であった。このことからリピート率（平成22年度までに参加歴のある家族／平成23年度参加家族数×100）を算出した。その結果、リピート率は53%であった。

(3) 場所

西九州大学神園キャンパスの3号館1階3室（子育て支援室、保育演習室、表現スタジオ）、理科実験室、体育館および大学周辺の公園や河川敷等に行っている。

(4) 参加費

保険料として1回につき1家族から100円を徴収している。

表1. 平成21年度子どもミュージアム実績

	内 容	参加家族数	参加人数	参加学生数
第1回	絵本から学ぶ子育て	9組	18名	15名
第2回	新聞紙で遊ぼう	28組	59名	15名
第3回	Body Talk ってな～に？	29組	60名	15名
第4回	楽器で遊ぼう	25組	54名	15名
第5回	ベビーカフェ&ミニコンサート	21組	47名	15名
第6回	身近な植物との出会い	11組	24名	15名
第7回	風船で遊ぼう	17組	38名	15名
第8回	みんなで楽しくリトミック	11組	23名	15名
第9回	心と身体のリフレッシュ法	9組	19名	15名
第10回	オペレッタ「オズの魔法使い」	27組	59名	30名
第11回	ブラックシアター	18組	37名	30名
計			438名	195名

※参加学生【関連授業】：幼児保育学科【共に学ぶあすなろう（保育）】【卒業研究】

表2. 平成22年度子どもミュージアム実績

	内 容	参加家族数	参加人数	参加学生数
第1回	読み聞かせ	6組	17名	14名
第2回	楽器で遊ぼう	22組	45名	15名
第3回	工作遊び「つくって遊ぼう」	19組	39名	16名
第4回	親子 de バレエ	12組	38名	17名
第5回	ミニコンサート&ベビー・カフェ	23組	49名	14名
第6回	自然たんけん	3組	8名	15名
第7回	生き物のふしぎ	7組	17名	16名
第8回	ミュージカル「ふしぎの国のアリス」	24組	61名	47名
計			274名	154名

※参加学生【関連授業】：幼児保育学科【卒業研究】
子ども学科【教育論】【保育内容指導法（人間関係）】

表3. 平成23年度子どもミュージアム実績

	内 容	参加家族数	参加人数	参加学生数
第1回	楽器で遊ぼう	14組	30名	9名
第2回	生きものたんけん隊	6組	6名	4名
第3回	絵本小劇場	13組	29名	7名
第4回	お話しの国で遊ぼう	3組	9名	5名
第5回	楽つみきで遊ぼう	27組	27名	7名
第6回	みんなで遊ぼう「おすもう」	5組	6名	5名
第7回	海の水と川の水のちがいは？	1組	3名	4名
第8回	紙芝居がやってきた！	6組	18名	9名
第9回	なんでもふしぎじっけん	10組	19名	6名
第10回	ミュージカル「くるみ割り人形」	14組	44名	40名
計			191名	96名

※参加学生【関連授業】：幼児保育学科【卒業研究】
子ども学科【子ども学演習】

3. 参加者のアンケート結果

開催毎に、すべての保護者と小学生にアンケートを実施している。

その結果を以下に示す。

(1) 保護者

<アンケート項目>

- 性別、年齢、家族構成、仕事のスタイル
- 参加回数
- 本活動の情報入手先
- 子育て全般に関する情報入手先
- 子育てに関する心配事や不安について
- よく利用する子育て支援施設や催し・活動について
- 本活動に参加した理由
- 本活動の評価（4段階）および感想
- 本施設に関する気づき
- 今後企画してほしい内容

本活動に参加した理由は、図2に示すように「講座の内容に興味があったから」が平成23年度は28名（33%）、平成22年度は58名（38%）、平成21年度は84名（31%）、また「子どもが喜びそうだから」が37名（43%）、63名（41%）、97名（36%）と参加者の3～4割を占めていた（以後年度同順）。また「友人に誘われて」が15名（17%）、20名（13%）、57名（21%）で1～2割程度、その他「近所だから」が4名（5%）、7名（5%）、16名（6%）、「大学（施設）の見学」が、1名（1%）、2名（1%）、5名（2%）、「友達ができそうだから」が、1名（1%）、2名（1%）、5名（2%）は少数回答であった。

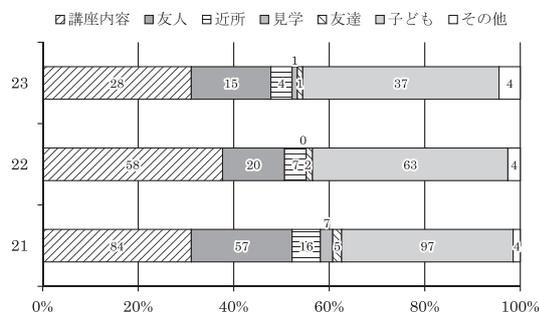


図2. 子どもミュージアムに参加した理由

活動参加後の感想として、「非常に満足」が34名（57%）、72名（66%）、70名（36%）、「満足」が20名（33%）、33名（30%）、86名（44%）で8～9割

が満足とされ、「やや物足りない」5名（8%）、1名（1%）、22名（11%）、「物足りない」が1名（2%）、0名（0%）、8名（4%）であった（図3）。また、本活動への再参加希望については、「ぜひ参加したい」51名（85%）、88名（80%）、152名（80%）、「機会があれば参加したい」が9名（15%）、18名（16%）、33名（17%）、「参加したくない」が全年度で0%であった（図4）。

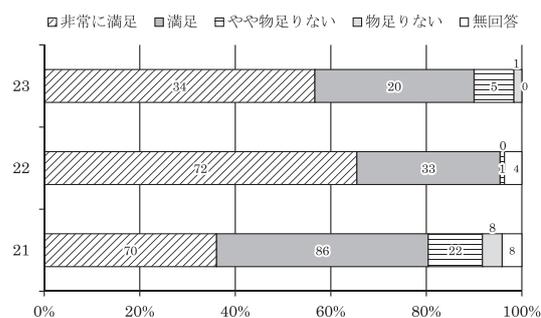


図3. 活動参加後の感想

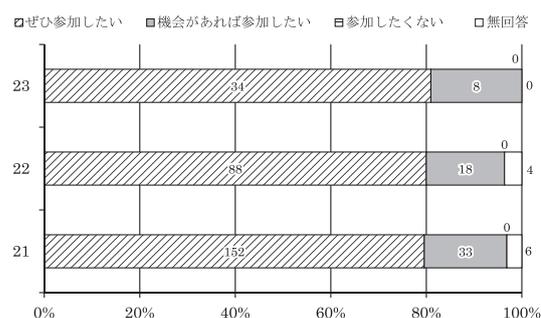


図4. 本活動への再参加希望

さらに、今後企画してほしい内容として以下があげられた。

- ・体を使った体操、表現的なリズム遊びやダンスなど。
- ・幼児が楽器に触れられる機会
- ・音楽を聞いたりするのが大好きで、親子で踊って遊べるリトミックを企画してほしい。
- ・本をたくさん読んでもらうには子どもがまだ小さく、スライドで写されたのを見る方が喜んでいたので、機会を増やしてほしい。
- ・夏休み中の、回数を増やしてほしい。
- ・科学の実験など家ではなかなかできないのでありがたい。
- ・理科のこのような1～3年生向けの講座を企画してもらいたい。
- ・小さい子どもに分かりやすくする為に大きめの絵を使って表現されるともっと伝わりやすかった。

- ・地域の方々との行事をしてほしい。参加型があるとさらに良い。前日より協力お手伝いします。チラシくばり呼び込みもお手伝いします。

その他、以下学生へのメッセージも記載されていた。

- ・学生さんの若さからか、子どもがいつもよりノリノリだった。
- ・温かい雰囲気学生さんが作ってくれ、子どもに伝わった。
- ・頑張ってたくさん自信をつけられ、今後に生かしてほしい。

(2) 子ども（小学生）

平成23年度より小学生以上の子どもの参加者にもアンケートを行った。平成23年度の小学生の参加人数は63名（男子30名、女子35名）で、結果は以下の通りである。なお、参加児の小学校名は図4に示す。

<アンケート項目>

- 性別
- 小学校名
- 学年
- ミュージアムの参加回数
- 今回参加した理由
- 今回の感想
- 次回のミュージアムに参加したいか

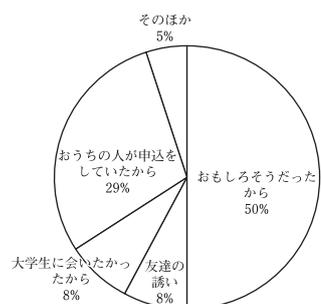


図5. 小学生が参加した理由

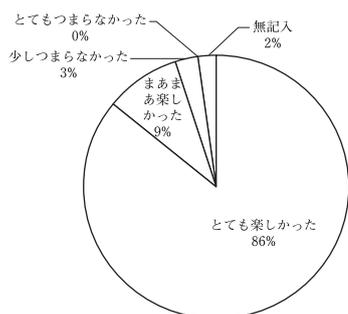


図6. 参加した小学生の感想

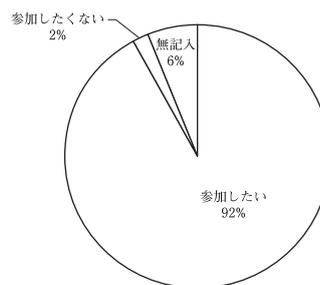


図7. 次回の参加希望

表4. 参加児の小学校名

	若楠	勸興	附属	春日北	鍋島	西郷	日新	神埼
合計	32	1	8	1	17	1	2	1

感想として以下の内容があげられた。

- ・とんぼが1匹ぐらいとれたからよかった。
- ・ブロックづくりとても難しかった
- ・またつみきをしたい。
- ・まだいっぱいあそびたかった。
- ・ゲームがしたい。
- ・ベープレード大会をやりたい。
- ・ドミノがたのしかった
- ・実験をしたい。
- ・スライム作りが楽しかった。虹色のスライムを作りたい。
- ・スライムを作ったのははじめてだったけど、上手にできたから良かった。空気のことよくわかった。
- ・行く前はいやだったけど、行ったらおもしろくて楽しかった。

4. 学生のアンケート結果

平成22年度と23年度に参加した学生へのアンケート結果を以下に示す。

<アンケート項目>

- 子どもミュージアムでの役割
 - 参加後の自己評価
 - 参加してよかったか（22年度は2択回答, 23年度以降は4択回答）
 - 機会があれば再参加したいか
 - 子どもミュージアムで保育・教育者を志す者として学ぶことはあったか（23年度以降より回答）
- 参加学生の役割は、図8と図9に示す。
また参加学生による自身の取組に対する評価を4

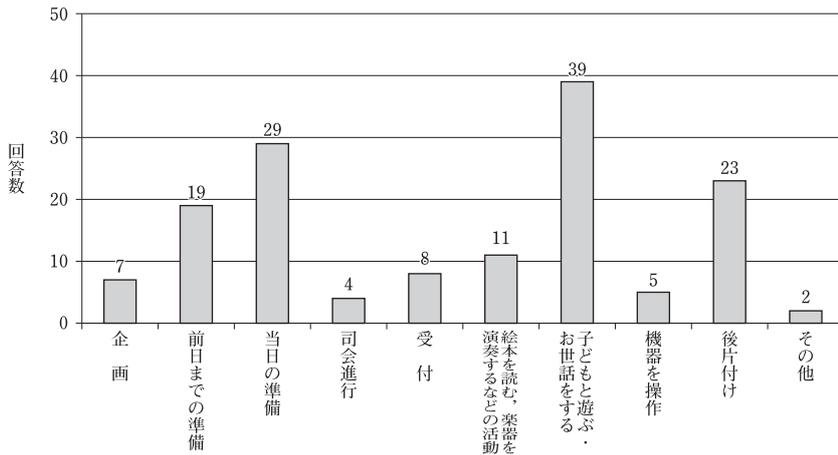


図 8. 平成22年度参加学生の役割

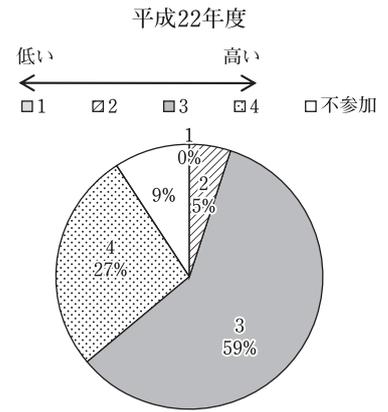


図10. 子ども学科参加学生の自己評価 (平成22年度)

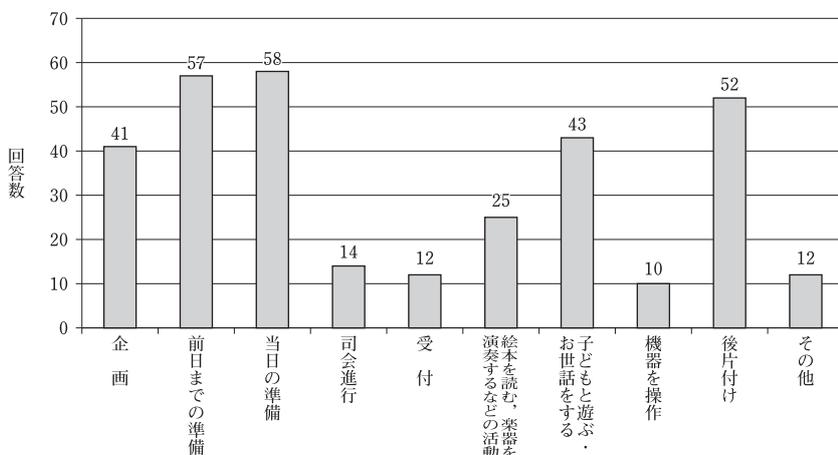


図 9. 平成23年度参加学生の役割

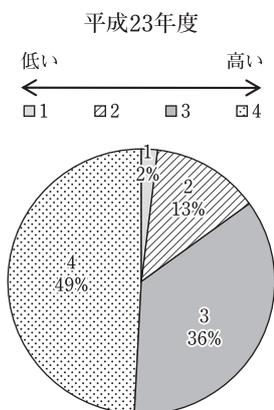


図11. 子ども学科参加学生の自己評価 (平成23年度)

参加してよかった (平成22年度)

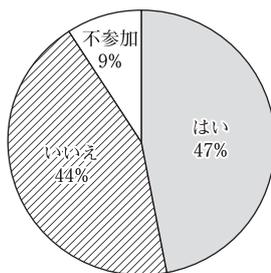


図12. 参加後の印象 (平成22年度)

参加してよかった (平成23年度)

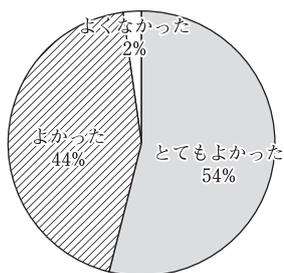


図13. 参加後の印象 (平成23年度)

段階 (高い順に 4・3・2・1) で示したものが図10と図11である。なお、22年度と23年度に関しては、子ども学科1期生による実施であり同一人物が2回の経験をした結果となる。これによると、両年度とも4と3の高評価としているものは8~9割おり、23年度の方が4評価の割合が高くなっている。一方、2、1の低評価も23年度が5%~15%へと高くなっており、自身の問題点や課題について振り返ることの必要性を感じていることが伺える。

学生の参加後の思いとして、参加して「よかった」が平成22年度は47%、「よくなかった」が44%であり、23年度は「とてもよかった」と「よかった」をあわせて98%であり、相違がみられた(図12, 図13)。また、機会があれば再度参加するかの問いには、85~95%の学生が「参加する」と回答し、さらに、保育教育者を志す者として学ぶことがあったかの問いに対し、94%があったと回答しており、子どもミュージアムでの経験が有意義なものであったと実感していることがわかった(図14, 図15, 図16)。

再度参加するか（平成22年度）

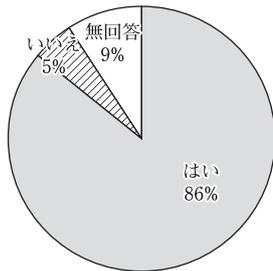


図14. 参加後の印象（平成22年度）

再度参加するか（平成23年度）

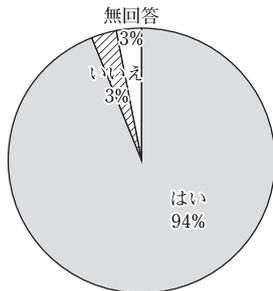


図15. 参加後の印象（平成23年度）

保育者、教育者として学ぶことはあったか
(H23年度)

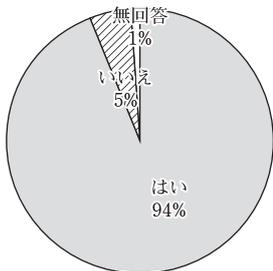


図16. 参加後の印象（平成23年度）
※平成23年度以降 質問項目に追加

参考文献

- 1) 川邊浩史・米倉慶子, 田中麻里, 川邊久美子
保育者を目指す学生と子育て支援(2)―新校舎を利用した実践報告― 西九州大学短期大学部 紀要第40号 2010年 pp.125-130
- 2) 木村直子・原田蘭子 大学における子育て支援活動の役割―大学内の「赤ちゃんサロン」における取り組みからパート1―全国保育士養成協議会研究大会第51回研究大会研究発表論文集 2012年 pp.344-345
- 3) 田辺圭子・瀬戸美江 イベント型子育てサロンにおける学生の学び～金沢市子育て支援事業「まちなかほっと子育てサロン」に参加して～全国保育士養成協議会研究大会第50回研究大会研究発表論文集 2011年 pp.436-437
- 4) 池田可奈子・椎山克己 子育て支援活動に携わる学生の保育展開力に関する教育的効果の検討 全国保育士養成協議会研究大会第50回研究大会研究発表論文集 2011年 pp.452-453
- 5) 千葉千恵美 保育士養成における子育て支援教育の必要性について 全国保育士養成協議会研究大会第50回研究大会研究発表論文集 2011年 pp.430-431

5. おわりに

本資料は、平成21年度から平成23年度までの3年間の活動内容と実績のまとめであり、今後の「子どもミュージアム」および子どもに関する支援者を養成する本学が今後取り組むべき子育て支援事業の在り方についての課題を検討するために作成した。

今後は平成24年度の実績も含めた振り返りや考察を喫緊に行い、平成25年度以降の本事業の在り方を検討していく。